

παρουσία

パルーシア

知っておきたいキリスト教のことば (79)

再臨 さいりん

日本聖公会の聖餐式では、ニケヤ信経を唱えますが、その中にこのような文言があります。

「また、生きている人と死んだ人とを審くため、栄光のうちに再び来られます」。

イエス様が再び来られるという「再臨信仰」は、新約聖書全体に見られます。イエス様は十字架の受難のあと、墓に葬られ、三日目に死から復活し、昇天されました。そして救いを完成させるために、再びこの世に来られるというのが再臨です。

特に新約聖書に多くの手紙が残されている使徒パウロは、その宣教においてイエス様の再臨を強調していきました。テサロニケの信徒への手紙一 4 章 16～17 節にはこのようにあります。

すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラツパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることとなります。

イエス様が昇天した後、初期のキリスト教会では再臨はすみやかにあると期待されていました。しかしなかなかイエス様は来られないまま、2000 年の時が経っています。

キリスト教の教派やカルトと呼ばれる団体の中には、この「再臨」を過度に強調し、恐怖心を煽る人たちがいます。しかし大事なことは、わたしたちが神さまのみ心を求めながら、毎日の信仰生活を送ることです。すべては神さまが良い方向へ導いてくださいます。

そして祈りましょう。「マラナ・タ！（主よ、来てください）」。

次回は「 sacrament」です。お楽しみに。



「キリストの再臨」
ヨハン・バプティスト・ツインマーマーン
(1680～1758 年)

そのとき、人の子の徴が天に現れる。そして、そのとき、地上のすべての民族は悲しみ、人の子が大いなる力と栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見る。

(マタイによる福音書 24 章 30 節)

